

---

# User of the first magic ~ Another birth ~

七星 破軍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

User of the first magic\Another  
birth

### 【Nコード】

N7641P

### 【作者名】

七星 破軍

### 【あらすじ】

User of the first magicの外伝です。

本編の設定、短編、本編での違うルート、違う結末を書いていきます。

## 老人とプレゼント

ある日俺は突然きたゼル爺からのメールに驚きつつも、俺たちの世界から2つ横の世界に向かったのだった。

その老人は疲れていた。何に疲れていたかと言えばそれは居ることになった。老人には1人の孫が居たのだが昨年亡くなってしまった。その孫は少し病弱でしかしとても優しい男の子でした。その孫のためにおじいちゃんである老人は誕生日プレゼントを買いに行った時に孫は死んでしまったのです。心臓麻痺でした。しかしその当時心臓麻痺など知られておらずおじいちゃんは孫を少し見なかつたために病気がこじれてしまったと勘違いしてしまい、ずっと悔やみ続けました。それから1年経ちその老人は孫の墓石の前で最後の時を自らの手で迎えようとしていました。その時、

『早まっつては駄目ですよ』

そう声をかけてくる青年のような人影が老人の後ろに立っていました。青年かわからなかった理由は彼の後ろから光が射していたからです。後光で見えないなか聞こえた声がそして背格好げ青年のものだったのです。その青年(?)は続けて、

『ご老人、自分で命を断つような事は決してはいけません。何があつたかを話してください』

そう言ってくる青年(?)に老人は孫を自分の不注意で殺してしまつたと丸で神に懺悔するように話していきました。全てを話し終えた老人に青年(?)は、

『それは、決してあなたの責任ではありません』

そう言いますが老人は首を振ります。青年は続けて

『あなたの責任ではありませんが、お孫さんと同じように優しいあなたは決して納得はしないでしょう。ならばあなたにはひとつの使命を与えます』

そう言うと青年（？）は自らの手を合わせました。すると一際後光が強くなり、次の瞬間にはその手には小さな袋が握られていたのです。

『この袋はその子供が真に欲しいと思っている物が出てきます』

そして、もう一度手を合わせると、今度は1匹の角があり鼻が赤い動物が現れました。

『この動物は天をかける事ができる特別なトナカイという動物です』

その袋とトナカイを青年は老人に渡すと、

『あなたにはこの袋とトナカイを使ってお孫さんの命日の子供達が寝静まった夜に子供にプレゼントを届けてもらいます。決して子供に見られてはいけませんよ。そしてこの役目を負った時からあなたの孫の命日にのみ1日分だけ年をとり命日以外では年をとることも死ぬこともできなくなります。そしてあなたが本当に満足したときか、全ての子供たちがあなたの行いを忘れてしまったときのみ、あなたはこの役目を解放されお孫さんの居るところに行くことができます。それでもやりますか？』

老人は頷きました。

その日の夜からまずはその老人が住んでいた街とその周辺の街。次の年はその老人の国。さらに翌年にはその周辺の国々へと老人のことが知れ渡っていきましたが、それでも老人は満足することがありませんでした。老人はさらに翌年には老人の居た国のあった大陸全域に、翌年には両隣の大陸、6年目について老人は全世界の子供にプレゼントを配る事ができました。が、それでも老人は満足せず、この年以降毎年全世界の子供たちにプレゼントを老人は配り続けました。

『はあ、これで本当に良かったのかな？ゼル爺もこの世界の子供のためとは言え酷いことをするし、俺に頼むよなあ』と独りごちてしまった。

ゼル爺からのメールにはこう書かれていたのだ。

『おう、元気になっているか神無？早速で悪いのだが、お前の世界から2つ右隣の世界に行って孫を亡くして後悔しておるクラウドという名前の老人に会って、プレゼントが出てくる何かと空を飛べる何かを渡して欲しいんだよ。ただし、渡す際にその孫の命日以外は不老不死、孫の命日には不労不思の呪いをかけて欲しいんだよ。呪いとかは正直嫌だろうが、我慢して呪いをかけてくれよ。  
では、頼んだぞ。』

## 老人とプレゼント（後書き）

クリスマスものでした。

すみません。3日も遅いですね。来年もう一度UPしたいと思いません。

一つだけ勝手に造語をしてしまいました。当然ながらこんな（不労不思）語句はありません。

こんな感じでこちらにはより自由な短編等を載せていきます。リクエストにもより気軽に答えられると思います。

感想、誤字・脱字等があればお願いします。リクエストも可能な限りお答えします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7641p/>

---

User of the first magic ~ Another birth ~

2010年12月31日21時27分発行